

平成 25 年度 えひめ女性財団助成研究

愛媛県における女性勤務医の就労環境に関する調査

松山東雲短期大学 桐木陽子
愛媛大学女性未来育成センター 郡司島宏美

目 次

第 I 部 調査の概要

I 調査の目的と方法	2
1. 調査目的	
2. 調査方法と調査対象	
3. 調査実施時期	
4. 回収率	

II 調査結果の概要	3
------------------	---

III 調査結果と考察

1. 回答者の属性	
(1) 回答者の年齢	
(2) 回答者の卒業後年数	
(3) 回答者の医師経験年数	
(4) 回答者の未既婚別	
(5) 回答者の配偶者	
(6) 同居している家族・家族スタイル	
(7) 子どもの数	
(8) 現在の専門科目・専門科目変更の状況	
(9) 勤務先の状況	
(10) 主たる勤務先の役職	
(11) 主たる勤務先での勤務年数	
2. 働き方	
(1) 勤務先数と複数の勤務先を選択する理由	
(2) 雇用形態	
(3) 週あたりの労働時間	
(4) 宿直・日直の実態	
(5) 休日の状況	
(6) 仕事の中断	
(7) 将来希望する働き方	

3. 仕事や職場に対する満足度
 - (1) 仕事や職場に対する満足度
4. 医師として疲労を感じていること・不安等
 - (1) 医師として疲労を感じていること
 - (2) 医療業務に携わるうえで感じていること
 - (3) 女性医師としての悩み
5. 男女共同参画に関する意識

6. 仕事と子育ての両立
 - (1) 産前・産後休業の取得状況
 - (2) 育児休業の取得状況
 - (3) 子育ての状況
 - (4) 配偶者の家事・育児への協力状況
 - (5) 事業所内託児・保育施設の利用状況
 - (6) 病気や予定外の保育が必要なときの対応
 - (7) 緊急呼び出し時の対応
 - (8) 学童保育の利用状況
 - (9) 子育て中の働き方の実際と希望
7. 仕事と介護の両立

8. 仕事と家庭生活を両立させるための支援方策について
 - (1) 支援に対する考え方
 - (2) 両立のための就労環境や規則の整備状況と要望
9. 自由記述から見えてくるもの

第Ⅱ部 資料

第 I 部 調査概要

I 調査の目的と方法

1. 調査目的

本研究は、愛媛県における女性勤務医の就労状況に関する実態を把握し、女性医師たちの離職防止・復職支援策としてどのようなものが求められているのかを探ることを目的としたものである。

2. 調査方法と調査対象

調査は、愛媛県内に所在する医療機関のうち、100床以上の75病院を対象とした。各病院にアンケート調査票を郵送し、女性勤務医に配付いただくように依頼した。

3. 調査実施時期

予備調査時期：2013年8月

本調査実施時期：2013年9月20日～11月8日

4. 回収率

配付数は500票で、回収数は120票（回収率24.0%）。

Ⅱ 調査結果の概要

●回答者の75.0%は、配偶者も医師

今回調査の回答者数は120人、そのうち「既婚」と回答した女性医師の配偶者についてみると、「医師」という回答が75.0%（48人）と全体の4分の3を占めており、「医師以外」が25.0%（16人）という結果である。

●回答者の約半数は、複数の病院に勤務。複数就業の理由は、勤務先からの指示や不足している専門科の病院からの要請というものが多い。

回答者に対し、勤務しているすべての病院等での勤務状況について尋ねた。その結果、「1ヶ所」にのみ勤務していると回答した人は50.4%（60人）で5割を少し上回っている。この数値は、複数の病院に勤務すると回答した人の割合と拮抗している。複数の勤務先に従事する人の中では、「2ヶ所」という回答が多くて26.1%（31人）、次いで「3ヶ所」10.9%（13人）となっている。「5ヶ所」と回答した人も7.6%（9人）とわずかながらいる。

複数の勤務先に勤務する理由について複数回答により尋ねたところ、47人から回答を得た。その結果、「勤務先からの指示があるから」という回答が圧倒的に多くて57.4%（27人）を占めている。次いで、「一つの勤務先だけでは生活自体が営めないから」が29.8%（14人）となっている。また、「不足している専門科の病院から要請があったから」も21.3%（10人）あり、理由としては第3位にあげられている。自分自身の理由というよりは、他からの要請により複数就業を選択しているケースが多いようである。

●回答者の約3割が、1週間60時間以上の勤務状況にある。なかでも、「未婚」、「既婚（子どもなし）」の人の労働時間が長い傾向にある。

1週間の平均実勤務時間について実数を尋ね、それらを10時間間隔でまとめたところ、「40時間以上50時間未満」という回答が最も多くて22.9%（27人）、「50時間以上60時間未満」が22.0%（26人）と続いている。60時間以上と回答したのは34人で全体の28.8%を占めている。回答者の3分の1は長時間労働での勤務実態にあると言えよう。

さらに、1週間の実労働時間を「未婚」「既婚（子どもなし）」「既婚（末子が未就学児）」「既婚（末子が小学生以上）」に分けてみた。その結果、「未婚」では、「50～60時間まで」と回答した人が25.5%（12人）と最も多く、さらに60時間以上と回答した人も42.6%（47人）と他の3タイプの家族スタイルの「既婚（子どもなし）」9.1%（2人）、「既婚（末子が未就学児）」10.0%（3人）、「既婚（末子が小学生以上）」11.1%（2人）よりも圧倒的に長

時間労働の傾向にある人の割合が多くなっている。既婚者の中で最多の割合を占める労働時間を比べてみると、「既婚（子どもなし）」が「50～60 時間まで」と回答した人の割合が 31.8%（7 人）」となっており、「既婚（末子が未就学児）」が「40～50 時間まで」36.7%（11 人）」、「既婚（末子が小学生以上）」が「40～50 時間まで」27.8%（5 人）」と、比較的長時間労働の傾向を示している。

●有給休暇の消化率は、約 8 割が消化率 50%以下と回答している。

年次有給休暇の年間消化日数について実数で尋ねた結果 96 人から回答があった。その結果、「2 日未満」と回答した割合が最も多くて 40.6%（39 人）、ついで「2 日以上 4 日未満」22.9%（22 人）、「4 日以上 6 日未満」14.6%（14 人）」となっていて、8 割弱が有給休暇を年間 6 日未満しかとっていない。

さらに、年次有給休暇日数と消化日数の両方に記載のあった 65 人について、その状況を見ると、61.5%（40 人）が有給休暇の消化率が 25%以下であると回答し、消化率 50%までに 81.5%と約 8 割を占めている。有給休暇を半分も消化できていない状況にある人がほとんどであることがわかる。

●復職する際の不安は、「ご自身の知識・技能の低下に関する不安」が多い。

仕事を中断し、復職する際の不安について具体的に尋ねた結果、「仕事と育児の両立に対する不安」（4 件）、「復職してから以前のペースを取り戻せるかどうかへの不安」（2 件）、「知識・技能の低下に対する不安」（13 件）、「子どもへの対応に対する不安」（7 件）、「自分の体力に対する不安」（1 件）、「周囲への不安」（2 件）。この結果からもわかるように、日々進歩する医療現場の状況に対応することができるかどうかに不安を抱えている女性医師が多いということがわかる。

●回答者の約 7 割が、将来希望する雇用形態は「常勤」と回答。

将来希望する雇用形態について、「常勤」「短時間正職員」「非常勤」「仕事をしない」という 4 つの選択肢をあげて回答を得た。その結果を見ると、「常勤」が 71.3%（82 人）で約 7 割を占めており常勤での就労を希望している人がほとんどである。次いで、「短時間正職員」19.1%（22 人）、「非常勤」は 1 割も満たずに 8.7%（10 人）」にとどまっている。

●現在の仕事、職場への満足度は高い傾向にある。さらに、仕事に対する「やりがい感」は、極めて強い。

「勤務先の仕事の質、内容」「給料・賃金の額」「労働時間の長さ」「休日・休暇の日数」「職場の人間関係」「患者（とその家族）との関係」「研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間」の7項目のうち、「満足している」と回答した割合が最も高い項目は、「休日・休暇の日数」で45.0%（54人）、次いで「給料・賃金の額」「患者（とその家族）との関係」がともに41.4%（49人）と続いている。さらに、「勤務先の仕事の質・内容」の38.3%（46人）である。「満足している」という回答に「やや満足している」を加えた割合を見ると、「賃金・給料の額」と「患者（とその家族）との関係」がともに94.0%と100%に近い数値を示しており、最も満足傾向の高い項目である。

さらに、仕事に対するやりがい感について尋ねた結果、「非常に感じる」29.4%（35人）と約3割の人が強いやりがい感をもっており、「やや感じる」58.8%（70人）と合わせると88.2%、9割近い人がやりがい感をもって日々の業務にあたっていることがわかる。

●医師としての疲労感は、「当直（宿直及び日直）」「時間外労働（当直以外）」に強く感じている。また、仕事と家事の両立にも、頭を悩ませている。

現在の職場や仕事に対して、比較的満足傾向にある一方、最も疲労感を感じているのは「時間外労働（当直以外）」である。次いで「当直（宿直及び日直）」と続いている。さらに、「職場風土・人間関係」「ご自身の医療水準の維持」「患者（およびその家族）の理不尽な要求」も疲労を感じる項目として高い数値を示している。長時間労働や宿直等の過酷な業務、さらには満足度を尋ねた項目では比較的高い満足傾向を示していた職場の人間関係や患者との関係であるが、患者（およびその家族）からの理不尽な要求に対しては、ややストレスを感じている様子が推察できる。また、医師という専門性の高い職業に対する責任感からか、「ご自身の医療水準の維持」に対しても疲労度が高い項目に挙げられている。

●女性医師たちは、現場の医師不足を痛感している。

職場の医師不足についてどのように感じているのかについて尋ねた結果、「非常に感じる」は45.0%（54人）と半数近い人が回答している。さらに「やや感じる」と回答したのは36.0%（43人）であるので、両者を合わせると81.0%（97人）と8割を超える人が職場の医師不足を感じている。

●女性医師たちは、性別役割分業意識には否定的である。

「結婚生活では、男性（夫）は仕事、女性（妻）は家事・育児を担当するのがよい」という考え方について、「そう思わない」と強く否定する人は50.9%と半数をわずかに超えており、「どちらかと言えばそう思わない」30.5%と合わせると81.4%と8割を超えており、

固定的な役割分担意識に対してほとんどの人が否定的であることがわかる。

● 9割以上の回答者が、女性医師の支援とともに、男性医師の勤務状況の改善もしたほうがよいと考え、さらに、女性医師が勤務を継続することは医師不足の解消につながると考えている。

「女性医師の支援とともに、男性医師の勤務状況の改善もしたほうがよい」「女性医師が勤務を継続することは医師不足の解消につながる」について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思う」「そう思わない」の4つの選択肢で回答を求めた。その結果をまとめたものが図表 81 である。すべての項目において、肯定的な意見（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合算）が9割以上を占めており圧倒的に多い。

● 仕事と家庭生活を両立させるため、整備してほしい方策として、「人員（医師）の増員」「宿直・日直の免除」「事業所内託児・保育施設における 24 時間保育」「時間外勤務の免除」「事業所内託児・保育施設における病児保育」が挙げられている。

整備を要望する項目については、「人員（医師）の増員」48 件、「宿直・日直の免除」48 件が最も多い。さらに、「事業所内託児・保育施設における 24 時間保育」44 件、「事業所内託児・保育施設における病時保育」43 件、「時間外勤務の免除」43 件と続いている。

時間短縮勤務や時間外勤務の免除、宿直・日直の免除といった時間的な配慮により、勤務を軽減するための措置が比較的整備されている様子が見えるが、上述のごとく、要望する項目としても多くの回答があり、「フレックスタイム制度」「短時間正社員制度の導入・拡充」など、さらなる充実に向けての要望も強い項目であると言える。

「事業所内託児・保育施設の整備」は、実態としても整備されているとした回答が比較的多い項目であるが、「事業所内託児・保育施設における 24 時間保育」、「事業所内託児・保育施設における 24 時間保育」という託児・保育内容の充実に関する項目や「放課後における学童保育の事業所内での実施」などは未整備の部分があり、時間的配慮に加えて制度の整備に対して強い要望が見える。